

独立行政法人日本貿易保険年度計画
(2 0 0 3 年度〔平成 1 5 年度〕)

0 3 - 一般 - 0 0 0 9 6
2 0 0 3 年 3 月 2 8 日

1 . ニーズの変化への的確な対応とサービスの向上

(1)サービスの向上

お客様の負担軽減

お客様にお掛けしているご負担と私どもの事務コストを軽減するため、中期目標期間中に、統一的な保険料計算方法の導入、計算方法の簡素化等を軸として、保険料体系を簡素化することとしています。2 0 0 3 年度においては、2 0 0 2 年度までの検討結果をもとに新しい保険料体系をとりまとめ、システム改造等必要な措置を進めることにより、2 0 0 4 年度からの実施を目指します。

また、保険契約に係る各種の手続きについて、お客様のご要望も踏まえ、簡素化を一層進め、お客様のご負担を軽減いたします。

意思決定の迅速化

業務の実態・変化に対応し、必要に応じ、組織及び意思決定プロセスを柔軟に見直し、意思決定の迅速化を図ります。

業務処理の迅速化

a) マニュアルの的確な管理・充実

2 0 0 2 年度に引き続き、制度改正等を踏まえ、マニュアルのメンテナンスを行う等の的確な管理を行うとともに、その充実に努めます。

b) N E X I ライブラリの拡充

貿易保険業務に関する知見の蓄積・共有を図るため、随時変更される各種規程、マニュアル等職員が共有すべき資料を網羅的に掲載した「N E X I ライブラリ」を構築し、そのメンテナンスを的確に行うことにより、業務処理の迅速化を図ります。

c) 「お客様憲章」の実行

2 0 0 3 年度から実施する「お客様憲章」に基づき、常に迅速な業務処理を心がけます。

d) 信用事故の保険金査定期間

保険事故査定事例データベースやマニュアルの運用・管理を進め、査定ノウハウの蓄積・共有に努め、将来的にも安定的に迅速な査定業務を行なうことができる体制を整備します。2003年度には、信用事故の保険金査定の期間（調査期間を含む。）を中期計画の目標である150日以下にすることを目指します。

案件管理の徹底

お客様からご相談をお受けした案件について、定期的に進捗管理を行なうとともに、Non-L/G信用案件及びプロジェクトファイナンス案件等については、保険契約締結後の案件のフォローアップを案件の性質に応じて行い、損害防止軽減のための措置等必要な対応をとることに努めます。

お客様からのご相談・ご要望への対応

お客様相談室に寄せられたご相談については迅速な対応に努めるとともに、お客様アンケートの結果を踏まえ、サービスの更なる向上に努めます。

環境社会配慮確認の円滑な実施

新たな環境社会配慮ガイドラインについては、必要な準備を整え、2003年10月から本格運用を開始するとともに、国際協力銀行と協力し、同ガイドラインの円滑な運用に努めます。

(2) ニーズの変化に対応したてん補リスクの質的及び量的な拡大

信用リスクの引受拡大

a) 中長期 Non-L/G 信用案件の引受

2003年4月に新たに講じるてん補率の引き上げを円滑に運用し、引受の拡大に努めます。また、引受を拡大するためには、引受審査能力の一層の向上が必要であり、引き続きリスクの分析・評価のノウハウの蓄積に努めるとともに、専門的な知見を有する者を新たに職員として採用し、引受審査の体制の強化を図ります。

b) 短期信用案件の引受

新たに導入した与信枠管理手法を円滑に運用するとともに、これまで個別の輸入者毎に行っていたリスク管理のあり方を見直し、グループ企業についてはグループ全体でのリスク管理を開始することにより、与信管理の更なる向上を図ります。

新しいリスクへの対応

京都メカニズムに係るリスク等新しいリスクへの対応について、積極的に検討を進め、貿易保険の活用を図ります。

魅力ある保険商品の開発

新保険料体系の実施に併せ組合包括保険、短期総合保険を中心とする既存保険商品の商品性改善の検討を進めます。また、2003年4月から販売を開始する短期限度額設定型保険についてもお客様のご要望を踏まえ、必要に応じて改善を行い、販売促進に努めます。

広報・普及活動の積極的な展開

パンフレットやホームページを更に充実させ、NEXIから積極的に情報を発信するとともに、各地でのセミナーの開催等を通じて、貿易保険商品の利用拡大及び貿易保険制度の普及に努めます。

保険料収入の確保

商品性の改善及び営業推進活動を積極的に実施することによって、引き続き、収支相償等の観点から見て適正かつ効率的な事業運営に支障が生じない範囲で、保険料収入の増加を図り、少なくとも2000年度の実績を確保するよう努めます。

(3)回収の強化

2003年度についても、引き続き、新たな回収スキームを円滑に運用するとともに、サービスの活用実績を増加させ、回収の強化を図ります。

更に、NEXIが保有する債権の管理を的確に行なうための取り組みを積極的に行い、適正な債権管理体制を構築します。

信用リスクに係る保険事故債権の回収実績率については、2003年度は2000年度実績を上回ることが確実なため、新たに2003年度の期首の回収実績率より5%引き上げること为目标として努力します。(回収額にして26.5億円)。

2. 経営の効率化

(1)業務運営の効率化

必要に応じた組織の見直し

中長期的な業務運営の効率化の観点から、必要に応じ組織の見直しを行います。

効率的な人員配置

専門性を高め、サービスの質を向上させるために、効率的な人員配置が引き続き必要であることから、傾向的に人件費率が増加しないように配慮しつつ、中途採用や転籍の推進による体制強化を行います。

経営指標の分析、業務費管理の徹底

経営資源の効率的な活用を図り、健全経営を実現するため、N E X I に適した経営指標を開発・導入し、経営状況の早期把握及び分析に努めます。また、業務費については、業務費支出の適切な管理を行い、人件費を含めた業務費全体の効率的な利用に努めます。業務費率については、18%以下となるよう努めます。

(2) 次期システムの効率的な開発

次期システムの開発計画について検討を進め、開発内容の具体的な設計を行うとともに、次期システムの開発を開始し、2005年度の次期システム稼働を目指します。

3. 高い専門性を持った人材の育成

(1) 人材の確保

N E X I の専門性を高め、サービスの質を向上させるために、専門的知見を有する者を中途採用及び転籍によるプロパー化を推進します。また、専門性の高い職員の定着に対するインセンティブの付与に資するような魅力ある就業環境の形成に引き続き努めます。

目標管理制度については、運用実績を踏まえた制度の改善を実施するとともに、研修を実施し、全職員が目標を的確に定め、成果を上げられるよう支援します。

(2) 人材の育成

職員に対する研修制度については、職員からのニーズを踏まえ、これまでの語学、会計中心の研修から、貿易保険制度、貿易実務、IT技能等の分野へと更に充実させ、専門性の高い人材の育成に努めます。

4. 予算、収支計画及び資金計画

(1) 予算（別添1）

(2) 収支計画（別添2）

(3) 資金計画（別添3）

5．短期借入金の限度額

2003年度 151億円

6．その他

経済情勢や国際情勢が急変した場合や、中期計画を見直す場合には、本年度計画も見直します。

(別添 1)

予算

(単位 : 百万円)

区 別	金 額
収入	
業務収入	7 , 3 0 5
正味収入保険料	6 , 3 1 0
正味回収金	8 6 6
受取利息	1 2 8
被出資債権からの回収金	1 8 , 2 8 4
前年度繰越金	4 2 , 7 9 7
計	6 8 , 3 8 5
支出	
業務支出	6 , 7 6 9
正味支払保険金	1 , 2 7 4
業務費	5 , 4 9 5
投資支出	1 , 0 0 0
翌年度繰越金	6 0 , 6 1 7
計	6 8 , 3 8 5

〔人件費の見積もり〕 2 0 0 3 年度総額 1 , 2 9 9 百万円を支出する。

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者手当及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

〔注記〕前提条件：元受保険料の伸び率を対前年度比 1 . 7 8 % と推定。

回収率を 6 8 % と推定。

支払保険金が対前年度比 4 % 減少するものと推定。

(別添 2)

収支計画

(単位 : 百万円)

区 別	金 額
費用の部	
經常費用	7 , 1 0 9
正味支払保険金	1 , 2 7 4
業務費	5 , 4 9 5
減価償却費	3 4 0
収益の部	
經常収益	7 , 1 7 6
正味収入保険料	6 , 3 1 0
正味回収金	8 6 6
財務利益	1 2 8
臨時利益	4 , 2 9 0
純利益	4 , 4 8 6

(別添 3)

資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	6 , 7 6 9
正味支払保険金	1 , 2 7 4
業務費	5 , 4 9 5
投資活動による支出	1 , 0 0 0
翌年度への繰越金	6 0 , 6 1 7
計	6 8 , 3 8 5
資金収入	
業務活動による収入	7 , 3 0 5
正味収入保険料	6 , 3 1 0
正味回収金	8 6 6
受取利息	1 2 8
財務活動による収入	1 8 , 2 8 4
前年度繰越金	4 2 , 7 9 7
計	6 8 , 3 8 5